

## 秋田酒クラブの利き酒会お手伝い

ニューヨーク岩手県人会

秋田酒クラブが主催する第26回春の利き酒会は5月31日、ニューヨーク市の日系人会で開かれ、日本酒ファンのニューヨーカーや日系企業の駐在員らが飲み比べを堪能しました。東北をはじめ国内40銘柄以上の地酒がそろい、岩手からは南部美人の「特別純米」「糖類無添加梅酒」など5銘柄と、酔仙酒造の「KIBO（希望）」が出品。岩手県人会からは川崎滋生さん、森隆朗さん、高山くみ子さん、そして私芳賀彰太の4人がボランティアとして参加し、南部美人のはんてんを羽織ってお酌を手伝いました。

「秋田名物と全国の銘酒祭り」と題して開催された利き酒会は、稲庭うどんや秋田味噌使用ハニー地鶏、いぶりがっこ、ちょろぎ、モッツアレラチーズの味噌漬けなど、小皿のおつまみが充実しており、私たちもお酌の合間に堪能。隣県自慢の味を通じて、古里を思い出す貴重な機会となりました。

東日本大震災後に陸前高田市で働いたことのある私としては、酔仙酒造ファンがニューヨークにいることに驚き。お酌をしたお客さんの中には、味わいの魅力を饒舌に語ってくれる人や、「どこで買えますか」と尋ねてくれる人も。私の手元には、奇跡の一本松がプリントされた



パンフレットがありましたので、つたない英語ですが酔仙酒造や震災について説明させていただきました。

利き酒会では、バイオリン奏者小澤真智子さんによる演奏や秋田の西馬音内盆踊りも披露され、楽しい時間はあっという間に経過。秋田酒クラブと秋田ゆかりの会の方々には、ボランティアとしてこのような経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。

